

# 2017年度 事業報告書

2017年4月 1日から  
2018年3月31日まで

公益財団法人 国際文化会館

| 項目             | 頁  |
|----------------|----|
| I. 組織体制        | 1  |
| II. 募金活動       | 3  |
| III. 総務関係事項    | 4  |
| IV. 施設管理       | 4  |
| V. 会員関係        | 5  |
| VI. プログラム活動    | 9  |
| VII. 国際文化会館の運営 | 29 |

## I. 組織体制

### A. 評議員会・理事会

2017 年度中に開催された評議員会・理事会は、以下の通りである。

|          |                   |
|----------|-------------------|
| 定時評議員会   | 2017 年 6 月 16 日開催 |
| 第 1 回理事会 | 2017 年 6 月 1 日開催  |
| 第 2 回理事会 | 2017 年 6 月 16 日開催 |
| 第 3 回理事会 | 2018 年 1 月 18 日開催 |
| 第 4 回理事会 | 2018 年 3 月 15 日開催 |

### B. 評議員・理事・監事

2017 年度中の評議員・理事・監事の異動は、以下の通りである。

【監 事】（全て 6 月 16 日付）

（新任） 手塚正彦

（退任） 宮尾舜助

【理 事】

（重任） 岩下 幹（6 月 16 日付）

（新任） 丸山 勇（6 月 16 日付）

（死去） 原田明夫（4 月 6 日）

【代表理事】（全て 6 月 16 日付）

（新任） 番場孝司（常務理事）

（退任） 降旗高司郎（常務理事）

【業務執行理事】（全て 6 月 16 日付）

（新任） 丸山 勇

（退任） 番場孝司

2017 年度末現在の役員数は、評議員 19 名、理事 12 名、監事 2 名である。

### C. 委員会

2017 年度中に開催された委員会は、以下の通りである。

#### 【役員等候補者選出委員会】

- 第 1 回 4 月 4 日開催
- 第 2 回 5 月 12 日開催
- 第 3 回 2018 年 2 月 27 日開催
- 第 4 回 2018 年 3 月 20 日開催

#### 【会員制度検討委員会】

- 第 1 回 4 月 24 日開催
- 第 2 回 5 月 23 日開催
- 第 3 回 6 月 20 日開催
- 第 4 回 7 月 28 日開催
- 第 5 回 9 月 5 日開催
- 第 6 回 10 月 19 日開催

#### 【六本木五丁目西地区市街地再開発検討委員会】

- 第 1 回 4 月 13 日開催
- 第 2 回 5 月 12 日開催

### D. 職員数

2017 年度中、新規の採用者は無く、2 名の退職者があったため、年度末現在の職員数は 13 名（男性 3 名、女性 10 名）である。

## II. 募金活動

### A. 助成金・寄付金

2017 年度中に領収した各種助成金・寄付金の主たるものは、以下の通りである。(千円未満四捨五入)

|               |           |
|---------------|-----------|
| (独)国際交流基金     | 19,460 千円 |
| 日米国際金融シンポジウム  | 13,300    |
| ハーバード・ロースクール  | 12,480    |
| 日米友好基金        | 5,698     |
| 米日財団          | 5,450     |
| (一財)MRAハウス    | 4,000     |
| (公財)渋沢栄一記念財団  | 2,200     |
| (公財)トヨタ財団     | 1,000     |
| シャハニアソシエイツ(株) | 1,000     |
| (株)森ビル        | 500       |
| (一社)霞会館       | 300       |
| 清水建設(株)       | 300       |
| (株)天童木工       | 300       |
| (株)三菱地所設計     | 50        |
| (株)西原衛生工業所    | 50        |
| 入会時寄付金        | 18,950    |
| 諸寄附           | 8,325     |

### III. 総務関係事項

#### A. アジア・ソサエティとのパートナーシップ協定締結

国際文化会館は、2018年3月30日に米国の民間非営利団体であるアジア・ソサエティ（Asia Society）との間で、戦略的パートナーシップ協定を締結した。会館側は明石康理事長が、アジア・ソサエティ側はジョゼッタ・シーラン理事長の代理としてトム・ナゴルスキー副理事長とチャールズ・ロックフェラー理事が協定書に署名した。

アジア・ソサエティは、米国とアジア地域の人々との相互理解を目的として、1956年にジョン・D・ロックフェラー三世によって創設され、ニューヨークに本部があるほか、米国内ではサンフランシスコ、ヒューストン、ロサンゼルス、ワシントンD.C.に、国外では上海、香港、マニラ、ムンバイ、シドニー、ソウル、チューリッヒに支部が置かれている。このたびの提携により、アジア・ソサエティは、会館内にジャパン・センターを設置し、日本での活動を本格的に始動させる。

また会館は、これまで以上にアジア・ソサエティと協力し、Asia Pacific Young Leaders Program (APYLP) をはじめ、アジア太平洋地域に焦点を当てた各種事業を展開していく。

#### B. 六本木5丁目西地区市街地再開発準備組合

地区住民・地権者の協議機関である「六本木5丁目西地区市街地再開発準備組合」（2008年設立）に会館も参加し、この地区のより良い街づくりについて話し合っている。2014年7月に基本計画改良案が策定され、これに基づき事業が進められていたが、震災復興やオリンピック特需などによる建設コスト増加等の影響により、引続き施設計画の変更が検討されており、2018年末に向けて最終的な基本計画案の策定が進められている。

### IV. 施設管理

2002年に導入した電話交換機の部品生産終了に伴い、交換機の保守延長サポートが終了することから、新規機種への更新工事を2018年1月28日に行われた定期点検時（全館停電）に行った。また、地下1階用空調機に経年劣化による不具合が発生したため、エンジン等の主要部の交換工事を2018年3月13日に行った。

## V. 会員関係

### A. 個人会員

2017年度は、新規入会が176名（日本人137名、日本人以外39名）あり、昨年度比61名増加（日本人43名増、日本人以外18名増）した。退会届提出、死亡、会費滞納による退会者は110名（日本人75名、日本人以外35名）で、昨年度比8名減少（日本人7名減、日本人以外1名減）した。これにより全体として67名の会員数の増加（日本人60名増、日本人以外7名増）となり、2018年3月31日現在、日本人会員2,118名と日本人以外41カ国（地域）の会員841名の合計は2,959名となった。

|           | 日本人       | 日本人以外    | 小計       | 合計         |
|-----------|-----------|----------|----------|------------|
| 新入会員      | 137 (82%) | 39 (18%) |          | 176 (100%) |
| 旧優待会員組み入れ |           | 1        |          | 1          |
| 退会        | 42        | 13       | 55(40%)  |            |
| 死亡        | 29        | 8        | 37 (38%) |            |
| 会費滞納      | 4         | 14       | 18 (22%) |            |
| 小計        | 75 (67%)  | 35 (33%) |          | 110 (100%) |
| 国籍変更      | -2        | +2       |          |            |
| 増減        | +60       | +7       |          | +67        |

### B. 法人会員

2017年度の新規入会は5法人7口で、昨年度比3法人1口減となった。一方10法人14口の退会及び減口があり、昨年度比1法人4口増となった。これにより法人会員数は昨年度比5法人7口減少し、2018年3月31日現在、合計170法人197口となった。

|      | 法人数 | 口数  | 昨年度比 |       |
|------|-----|-----|------|-------|
| 4口 " | 1   | 4   | -1   | (-4口) |
| 3口 " | 5   | 15  | +2   | (+6口) |
| 2口 " | 14  | 28  | -3   | (-6口) |
| 1口 " | 150 | 150 | -3   | (-3口) |
| 計    | 170 | 197 | -5   | (-7口) |

### C. 優待会員

優待会員は会員の種類から廃止されていたが、2017 年 4 月に残っていた 1 名を個人会員に切り替え、2018 年 3 月 31 日現在、優待会員は 0 名となった。

### D. 図書会員

新規入会者は 22 名、退会者は 29 名で、2018 年 3 月 31 日現在、図書会員は 16 力国 124 名となった。

### E. 総収入

2017 年度の図書会費を含む会費収入は、¥64,485,282 で、昨年度比 ¥722,808 増加し、また入会時寄付金収入は ¥18,950,000 で、昨年度比 ¥6,000,000 増加した。法人会費収入は ¥34,169,924 で、昨年度比 ¥855,516 減少した。

|        | 2017 年実績            | 予算                  | 2016 年実績            |
|--------|---------------------|---------------------|---------------------|
| 個人会員費  | ¥64,485,282         | ¥65,000,000         | ¥63,762,474         |
| 入会時寄付金 | 18,950,000          | 10,000,000          | 12,950,000          |
| 法人会員費  | 34,169,924          | 35,000,000          | 35,025,440          |
| 合計     | <u>¥117,965,206</u> | <u>¥111,000,000</u> | <u>¥111,737,914</u> |

### F. 会員晩餐会

2017 年度は、11 月 14 日に特別ゲストとして国際交流基金顧問／日本パラリンピックサポートセンター理事長／青山学院大学特別招聘教授の小倉和夫氏をお迎えし、「国際交流と非言語コミュニケーション」と題して、興味深いお話を伺った。当日は 78 名の会員が集い、交歓のひとつきをお楽しみいただいた。

### G. 新入会員懇親会

2017 年度の新入会員懇親会は、6 月 27 日および 2018 年 2 月 13 日に開催され、それぞれ新入会員 37 名と同伴者 22 名の計 59 名、および新入会員 45 名と同伴者 14 名の計 59 名が出席した。



個人会員国籍別統計

(2018年3月31日現在)

| 国籍／地域    | 計<br>2017年<br>3月31日 | 新入会員<br>(+) | 退会<br>(-) | 死亡<br>(-) | 会費滞納<br>(-) | 計<br>2018年<br>3月31日 |
|----------|---------------------|-------------|-----------|-----------|-------------|---------------------|
| オーストラリア  | 27                  | 2           | 0         | 0         | 0           | 29                  |
| オーストリア   | 4                   | 0           | 0         | 0         | 0           | 4                   |
| バングラデシュ  | 0                   | 1           | 0         | 0         | 0           | 1                   |
| ベルギー     | 4                   | 0           | 0         | 0         | 0           | 4                   |
| ブラジル     | 1                   | 0           | 0         | 0         | 0           | 1                   |
| カナダ      | 32                  | 4           | 0         | 0         | 0           | 36                  |
| 中華人民共和国  | 3                   | 0           | 0         | 0         | 0           | 3                   |
| チェコ      | 1                   | 0           | 0         | 0         | 0           | 1                   |
| デンマーク    | 2                   | 1           | 0         | 0         | 0           | 3                   |
| エクアドル    | 1                   | 0           | 0         | 0         | 0           | 1                   |
| エリトリア    | 0                   | 0           | 0         | 0         | 0           | 1 **                |
| フィンランド   | 3                   | 0           | 0         | 0         | 0           | 3                   |
| フランス     | 11                  | 1           | 0         | 0         | 0           | 12                  |
| ドイツ      | 29                  | 0           | 0         | 0         | 0           | 29                  |
| 香港       | 2                   | 0           | 0         | 0         | 0           | 2                   |
| ハンガリー    | 1                   | 0           | 0         | 0         | 0           | 1                   |
| インド      | 9                   | 0           | 0         | 0         | 1           | 7 *                 |
| インドネシア   | 3                   | 0           | 0         | 0         | 0           | 3                   |
| アイルランド   | 6                   | 0           | 1         | 0         | 0           | 5                   |
| イスラエル    | 2                   | 0           | 0         | 0         | 0           | 2                   |
| イタリア     | 6                   | 0           | 0         | 0         | 0           | 6                   |
| 日本       | 2,058               | 137         | 42        | 29        | 4           | 2,118 *             |
| ケニア      | 1                   | 0           | 0         | 0         | 0           | 1                   |
| 韓国       | 19                  | 4           | 1         | 0         | 0           | 22                  |
| マレーシア    | 4                   | 0           | 0         | 1         | 0           | 3                   |
| ネパール     | 1                   | 0           | 0         | 0         | 0           | 1                   |
| オランダ     | 7                   | 0           | 0         | 0         | 0           | 7                   |
| ニュージーランド | 2                   | 0           | 0         | 0         | 0           | 2                   |
| フィリピン    | 3                   | 0           | 0         | 0         | 0           | 3                   |
| ポルトガル    | 1                   | 0           | 0         | 0         | 0           | 1                   |
| ロシア      | 1                   | 0           | 0         | 0         | 0           | 1                   |
| シンガポール   | 5                   | 0           | 0         | 0         | 0           | 5                   |
| スペイン     | 1                   | 0           | 0         | 0         | 0           | 1                   |
| スリランカ    | 0                   | 1           | 0         | 0         | 0           | 1                   |
| スウェーデン   | 10                  | 0           | 0         | 0         | 0           | 10                  |
| スイス      | 5                   | 0           | 0         | 0         | 0           | 5                   |
| 台湾       | 3                   | 0           | 0         | 0         | 0           | 3                   |
| タイ       | 10                  | 0           | 0         | 0         | 0           | 10                  |
| トルコ      | 4                   | 0           | 0         | 0         | 0           | 4                   |
| イギリス     | 53                  | 1           | 1         | 0         | 0           | 53                  |
| アメリカ     | 556                 | 24          | 10        | 7         | 13          | 553 *               |
| ベトナム     | 1                   | 0           | 0         | 0         | 0           | 1                   |
| 日本人      | 2,058               | 137         | 42        | 29        | 4           | 2,118               |
| 日本人以外    | 834                 | 39          | 13        | 8         | 14          | 841                 |
| 合計       | 2,892               | 176         | 55        | 37        | 18          | 2,959               |

\*国籍変更:インド→USA(1名)、日本→USA(2名) 7

\*\*旧、優待会員から切り替え

法人会員分布  
(2018年3月31日現在)

| 県／国  | 4口 | 3口 | 2口 | 1口  | 法人数 | 口数  |
|------|----|----|----|-----|-----|-----|
| 千葉   |    |    | 1  | 0   | 1   | 2   |
| 東京   | 1  | 4  | 12 | 127 | 144 | 167 |
| 神奈川  |    |    |    | 1   | 1   | 1   |
| 富山   |    |    |    | 1   | 1   | 1   |
| 石川   |    |    |    | 1   | 1   | 1   |
| 滋賀   |    |    |    | 1   | 1   | 1   |
| 愛知   |    |    |    | 1   | 1   | 1   |
| 大阪   |    | 1  | 1  | 2   | 4   | 7   |
| 岡山   |    |    |    | 1   | 1   | 1   |
| 広島   |    |    |    | 1   | 1   | 1   |
| 福岡   |    |    |    | 1   | 1   | 1   |
| 茨城   |    |    |    | 1   | 1   | 1   |
| ドイツ  |    |    |    | 2   | 2   | 2   |
| 香港   |    |    |    | 1   | 1   | 1   |
| オランダ |    |    |    | 1   | 1   | 1   |
| イギリス |    |    |    | 1   | 1   | 1   |
| アメリカ |    |    |    | 7   | 7   | 7   |
| 合計   |    |    |    |     |     |     |
| 法人数  | 1  | 5  | 14 | 150 | 170 |     |
| 口数   | 4  | 15 | 28 | 150 |     | 197 |

## VI. プログラム活動

### I. 知的対話プログラム

#### 1. アジア・リーダーシップ・フェロー・プログラム (ALFP)

1996年度以来、国際交流基金との共催事業として実施してきたアジア・リーダーシップ・フェロー・プログラム (ALFP) は、2017年度で22年目を迎えた。ALFPでは、毎年アジア各国から7～8名のパブリック・インテレクチュアルを選抜し、フェローとして2カ月間日本に招聘している。滞日中フェローたちは、国際文化会館で寝食を共にしながら、アジア地域や世界に共通する諸課題について議論する。こうした知的対話を通じてALFPは、トランスナショナルな理解と協力を促進し、アジアのパブリック・インテレクチュアルおよび日本のカウンターパートとの緊密なネットワーク構築を目指している。2017年度は、7名のフェローを招聘した。現在までに、学術、ジャーナリズム、出版、法律、教育、芸術、NGO（非政府組織）、NPO（非営利組織）など、さまざまな専門領域で活躍するフェロー131名が選ばれている。

2017年度は、「Seeking Our Commons in Asia: How Can We Create Visions for the Future?」という共通テーマのもと、フェローたちは9月11日から11月2日まで主として国際文化会館に滞在し、日本を拠点とする学者、ジャーナリスト、芸術家、NGO／NPOリーダーたちとのワークショップ、リソース・セミナー、フィールド・トリップに参加した。プログラムの最後には公開フォーラムを開催し、共同作業の成果を交えながら、それぞれの専門テーマや国の現状について発表した。

2017年度に来日した7名のフェローとプログラム概要は、以下の通りである。

波多野綾子／ニューヨーク大学アメリカ・アジア法研究所客員研究員  
(日本)

ファザール・ハリク／ドーン・メディア・グループリポーター、文化活動家  
(パキスタン)

スディルマン・ナシール／ハサヌディン大学公衆衛生学部上級講師・研究員  
(インドネシア)

スミタ・パティル／インディラ・ガンジー国立公開大学 (IGNOU)  
ジェンダー・開発学部助教  
(インド)

ファン・タイン・ドウック／銀行学院経営情報システム学部学部長  
(ベトナム)

サロージ・シーサイ／ASEAN事務局環境課課長  
(タイ)

ワン・シン 王馨／南京日報マルチメディアセンター副センター長  
(中国)

#### [ワークショップ]

フェローによるカントリー・レポート (1) (9月12日)

フェローによるカントリー・レポート (2) (9月13日)

#### [ディスカッション・ペーパー発表会議] (9月15～16日)

フェローが、自身の専門分野や出身国の現状について発表し、日本の有識者と議論を交わす会議を国際文化会館で開催した。参加者は、以下の通りである。

阿古智子／東京大学大学院准教授

伊藤 毅／上智大学准教授

小川玲子／千葉大学准教授

水野孝昭／神田外語大学教授

#### [リソース・セミナー]

北東アジア・コアセミナー「経済統合か国際競争か：東アジアにおける相反する潮流」高原明生／東京大学教授 (9月19日)

東南アジア・コアセミナー with ドキュメンタリー映画 マリオ・ロペズ／京都大学准教授 (9月20日)

南アジア・コアセミナー「グローバル化するインドとアジアにおける構造変容：持続可能、包括的、平和的な開発」田辺明生／東京大学教授 (9月22日)

「衛星技術とサービス」神武直彦／慶應義塾大学准教授 (10月2日)

「グローバリズムとナショナリズムとポピュリズム：トランプ主義の構造分析」会田弘継／青山学院大学教授 (10月4日)

「記憶と忘却：文化遺産と第二次世界大戦」アンベス・R・オカンボ／アテネオ・デ・マニラ大学准教授 (2014年度ALFPフェロー) による講演、および新渡戸国際塾塾生、マンスフィールドフェロー、カケハシ・プロジェクト参加者とのディスカッション (10月15日)

「私たちの共通の課題：グローバルヘルス」黒川 清／医学博士、政策研究大学院大学名誉教授 (10月16日)

「何が日本の女性の活躍を妨げているのか」大沢真知子／日本女子大学教授 (10月17日)

[三重・大阪フィールド・トリップ] (9月24～28日)

地域特性を活かした地方創生と防災

- セミナー「地方と都市部、そして地域間の格差是正、および防災」  
鈴木英敬／三重県知事

環境の持続可能性と文化の保全について

- 伊勢神宮の歴史と建築、神道について宮司による説明と案内
- 海女文化の保全・継承、環境、資源管理について、尾崎よし氏（海女）  
および櫻井拓馬氏（三重県教育委員会事務局）との対話
- 環境と生態系を考慮した森林経営、および文化的景観と森林維持の関係  
に関するセミナー 速水 亨／速水林業社長

日本の貧困とマイノリティー問題について

- 大阪・あいりん地区における貧困と高齢化問題に関するブリーフィング  
および同地区視察  
ありむら 潜／釜ヶ崎のまち再生フォーラム事務局長
- セミナー「在日韓国・朝鮮人の多様性と日本および朝鮮半島とのつながり」  
李 洙任／龍谷大学教授、2008年度ALFPフェロー
- コリアタウン訪問と在日韓国・朝鮮人に関するセミナー  
金 光敏／コリアNGOセンター事務局長

[その他の訪問先]

- 社会福祉法人藤雪会
- 朝日新聞東京本社、NHK

[リトリート合宿] (10月22～23日)

公開フォーラムに向けて今年度のALFPの総合テーマ「Seeking Our Commons in Asia: How Can We Create Visions for the Future?」について議論を重ねる合宿会議を、箱根で開催した。

[公開フォーラム] (11月1日)

約2カ月間にわたる日本での共同作業の集大成として、11月1日に国際文化会館にて公開フォーラム「Seeking Our Commons in Asia: How Can We Create Visions for the Future?」を開催した。フォーラムでは小川玲子氏（千葉大学准教授）による司会のもと、フェローたちが対話の成果を交えながら、それぞれの専門や国の現状について発表した。

## 2. 牛場記念フェローシップ

現代の複雑化した国際情勢を読み解き、時代の一步先を見据える世界的なオピニオン・リーダーを招聘し、グローバル社会が直面する諸課題について意見交換を行うことにより、日本と諸外国との相互理解の増進を試みるプログラムである。滞日中のフェローは、公開講演会と専門家を中心としたセミナー、ワークショップなどに講師として参加するほか、各フェローの希望に応じて非公式な対談やディスカッションの機会を設定する。なお本フェローシップは、牛場信彦記念財団の残余財産の寄贈を受けて実施している。

2017年度は、2018年度以降に招聘するフェローを選出するべく、5名の有識者に運営委員を依頼し、また、国内外の関係者にフェローの推薦依頼を行った。2018年度前半に選考委員会を開催し、今後招聘するフェロー2～3名を選出する。

## 3. 日印対話プログラム Japan-India Distinguished Visitors Program

日印平和条約の締結から60周年を迎えた2012年に、日印両国間に民間レベルの「対話の場」を創出するために立ち上げたプログラムである。本プログラムは、社会のさまざまな課題の解決に向けて、現状を打破するための新しい価値やアイデアを提案し、インド国内で影響力のある人物を、政治、経済、文化、学術、科学など幅広い分野から年間1名、一週間程度日本に招聘する。招聘フェローは、講演会、関連機関への訪問、地方視察などを通して日本の関係者と意見交換やネットワーク構築を行う。本事業は、2016年度まで国際交流基金と共催し4名のフェローを招聘、2017年度より、シャハニ・アソシエイツ株式会社との共催で実施している。

2017年度は、インドで布材を使った独創的な開発モデルを構築し、「Clothing Man（衣服の人）」として広く知られるアンシュ・グプタ氏を招聘した。グプタ氏は、9月3日に来日し、9月10日までの滞在中に国際文化会館での講演のほか、都内のインターナショナル・スクールや大学を訪問し講義を行った。さらに、新渡戸国際塾の塾生と意見交換を行った。

| 開催日  | テーマ                        | 講師など                                                                 |
|------|----------------------------|----------------------------------------------------------------------|
| 9月8日 | エコロジカルな支援という革新—インドの貧困問題に挑む | アンシュ・グプタ（非営利団体 Goonj 創設者）<br>コメンテーター&モデレーター：<br>近藤正晃ジェームス（国際文化会館評議員） |

#### 4. 日米国際金融シンポジウム（ハーバード・ロースクール）

国際文化会館はハーバード・ロースクール国際金融システム・プログラム（PIFS）との共催で、日米国際金融シンポジウムを実施している。本シンポジウムは、毎年日米交互で開催され、日米両国の政府高官、政治家、金融機関幹部、法律家、コンサルタント、研究者、メディア代表者など 100 名以上が参加し、2 日間にわたって国際金融システムの機能と安定化にかかわる問題について討議を行うものである。

第 20 回シンポジウムは、10 月 21～22 日に神奈川県小田原市で開催され、日米から 117 名が参加、以下の 2 つのテーマについて討議した。

- 金融規制の行方：規制緩和、フラグメンテーションとバーゼル体制の崩壊
- 金融政策のエクジットをどう乗り切るか：中央銀行と金融機関にとっての課題

また 10 月 19 日には、本シンポジウム 20 周年記念レセプションを国際文化会館にて開催し、これまでの参加者や関係者 126 名が出席した。

なお、2017 年度はシンポジウム開催にあたり、日米双方の金融関連企業・団体や個人から協賛を得た。

## II. 人材育成プログラム

### 1. 新渡戸国際塾

新渡戸国際塾は、企業、NGO／NPO、官公庁、研究機関などの若手社員を対象に、国内外の国際的な現場で活躍できる人材の育成を目的に、2008 年度から実施しているもので、2017 年度に第十期を迎えた。明石康（国際文化会館理事長）が塾長、渡辺靖氏（慶應義塾大学教授）がコーディネーターを務めている。第十期は「揺らぐ国際秩序—来るべき世界の枠組み」をテーマに、6 月から 12 月まで全 14 回のセッションを行った。

第十期には、書類審査（願書・小論文）と面接審査を経て、官公庁、企業（商社、メーカー、コンサルティングなど）のほかにも医師や研究者、映画関係者など含む 16 名の塾生（平均年齢 32 歳）が選抜された（第一期からの累計は 143 名）。全 14 回のセッションのうち、4 回を一般に公開した。

本プログラムは、公益財団法人渋沢栄一記念財団と一般財団法人 MRA ハウスの助成を受けて実施している。

2017 年度のカリキュラムは、以下の通りである。

| 回   | 日時                                | テーマ                                                                                                                                                                              | 講師など                                                                                                                                       |
|-----|-----------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回 | 6月17日                             | 開講式<br>オリエンテーション                                                                                                                                                                 | 渡辺 靖／コーディネーター、慶應義塾大学教授                                                                                                                     |
| 第2回 | 7月1日                              | 「ステークホルダー<br>資本主義—原点から<br>学ぶ」                                                                                                                                                    | 渋澤 健／コモンズ投信株式会社取締役<br>役会長、公益財団法人渋沢栄一記念財<br>団業務執行理事                                                                                         |
| 第3回 | 7月15日                             | 鯖江スタディツアー<br>事前勉強会                                                                                                                                                               | 木村共宏／福井県鯖江市地域おこし<br>協力隊員、新渡戸国際塾4期生                                                                                                         |
| 第4回 | 7月22日<br>～<br>23日<br>(福井県鯖<br>江市) | 「人は城、人は石垣、<br>人は堀—信玄に学ぶ<br>牧野流“国づくり”」<br>「新たな地域産業を<br>育てる—眼鏡から<br>医療器具への進出」<br>「SAKEの無限の可<br>能性を信じて—日本<br>酒未開地への挑戦」<br>「地域と共にある<br>地域企業の在り方」<br>「『作る』から『創る』<br>へ—地元の愛を礎に<br>世界へ」 | 牧野百男／福井県鯖江市長<br><br>堀川 馨／株式会社シャルマン会長<br><br>加藤團秀／有限会社加藤吉平商店第<br>11代当主<br><br>高野利明／株式会社ヤマト工芸社長<br><br>西村昭宏／株式会社西村金属常務取<br>締役、株式会社西村プレジジョン代表 |
| 第5回 | 8月5日                              | 「『民主主義』とは何<br>か」                                                                                                                                                                 | 佐伯啓思／京都大学名誉教授                                                                                                                              |
| 第6回 | 8月26日                             | 「国際協調・国際協力<br>の在り方と日本・日本<br>人の役割」                                                                                                                                                | 明石 康／塾長                                                                                                                                    |
| 第7回 | 9月9日                              | 「インドの貧困問題<br>に取り組む」                                                                                                                                                              | アンシュ・グプタ／非営利団体 Goonj<br>創設者・代表                                                                                                             |
| 第8回 | 9月23日<br>～24日                     | 「私たちが描く 2030<br>年のシナリオ」                                                                                                                                                          | 渡辺 靖／コーディネーター、慶應義<br>塾大学教授                                                                                                                 |



|      |            |                                                                 |                                                                              |
|------|------------|-----------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|
|      | (山梨県清里清泉寮) |                                                                 | 千野境子／運営委員、産経新聞客員論説委員                                                         |
| 第9回  | 10月7日      | 「鯖江市について」<br>「政局分析：社会保障・地方創生」<br>「政局分析：外交・安保・国際協力」              | 塾生のための非公開討議                                                                  |
| 第10回 | 10月15日     | 「Forgetting as Remembering: Cultural Heritage and World War II」 | アンベス・R・オカンボ／アテネオ・デ・マニラ大学准教授<br>(ALFP、マンスフィールド財団、カケハシ・プロジェクトのアジア系米国人フェローとの対話) |
| 第11回 | 10月28日     | 「自由と平和を追い求めたシリアの『理想』と『現実』」                                      | ナジブ・エルカシュ／リサーラメディア代表                                                         |
| 第12回 | 11月4日      | 「伝統から未来へ—能×現代音楽で世界を拓く」                                          | 青木涼子／能×現代音楽アーティスト                                                            |
| 第13回 | 11月18日     | 「智慧がもたらす希望の扉—次世代が築く新たな日中関係」                                     | 毛丹青／神戸国際大学教授                                                                 |
| 第14回 | 12月2日      | 修了式                                                             | 明石 康／塾長<br>小川 忠／運営委員、跡見学園女子大学教授<br>千野境子／運営委員、産経新聞客員論説委員<br>佐藤孝義／MRAハウス理事長    |

## 2. 日米芸術家交換プログラム（共催：日米友好基金）

米国の芸術家5名（5組）が来日し、3～5カ月間、日本の文化・芸術を研究し、創作活動を行ったり、日本の芸術家と交流を深めたりするプログラムで、日米友好基金（Japan–United States Friendship Commission）が主催し、国際文化会館は来日中のフェローの活動支援を受託している。1978年より実施され、専門スタッフが来日時のオリエンテーションや住居の手配、日本人芸術家

や関連団体などへの紹介、情報の提供や通訳など、フェローの活動全般をサポートしている。

2017 年度に来日したアーティストは、以下の通りである。

エレーン・バックホルツ Elaine Buckholtz（美術作家）（6月から5カ月間）  
 ジェイミ・ナカムラ・リン Jami Nakamura Lin（作家）（3月から4カ月間）  
 キミ・マエダ Kimi Maeda（舞台芸術家）（7月から5カ月間）  
 クウィン・ヴァンツー Quynh Vantu（建築家）（12月から5カ月間）  
 ヴァネッサ・ヴォスキール Vanessa Voskuil（振付家）（4月から3カ月間）

また、来日中の米国人芸術家の活動や、彼らと日本人芸術家がコラボレーションする際の発表の場として、「IHJ アーティスト・フォーラム（略称 AF）」（助成：日米友好基金）を不定期に開催している。

2017 年度に開催したアーティスト・フォーラムは、以下の通りである。

| 開催日       | タイトル                                                       | 出演者・講師など                                                                     |
|-----------|------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|
| 4 月 13 日  | リーディング<br>「炎上と逃走のあいだ」                                      | スピーカー：ジェイミ・ナカムラ・リン                                                           |
| 6 月 23 日  | 映画上映<br>『カクテル・パーティー』                                       | 監督：レジー・ライフ<br>モデレーター：マーク・シリング（映画評論家）                                         |
| 7 月 7 日   | アーティスト・トーク<br>「生きた色彩で夜を紡ぐ：<br>エレーン・バックホルツの<br>光のインスタレーション」 | スピーカー：エレーン・バックホルツ<br>ゲストスピーカー：藤本隆行（美術家・照明アーティスト）、フロー・ヴァン・デ・ヴェルデ（美術家・教育者・作曲家） |
| 8 月 3 日   | 体験型パフォーマンス<br>「光学的庭園ツアー」                                   | アーティスト：エレーン・バックホルツ<br>ゲスト：フロー・ヴァン・デ・ヴェルデ（美術家・教育者・作曲家）                        |
| 10 月 25 日 | ソロパフォーマンス<br>『Bend』                                        | 作・出演：キミ・マエダ                                                                  |
| 12 月 19 日 | アーティスト・トーク<br>『内と外：入り口の文化と<br>空間体験について』                    | スピーカー：クウィン・ヴァンツー                                                             |

### III. パブリック・プログラム

#### 1. アイハウス・レクチャー

本プログラムは、各分野の第一線で活躍中の専門家を講師に迎え、タイムリーな世界情勢や、諸外国との比較から見えてくる日本社会への示唆について政治、経済、外交、文化などの切り口からお話いただくものである。いずれの講演も基本的には通訳をつけず、英語または日本語で行う。

2017年度は、下記の4回の講演会を開催した（英語1回、日本語3回）。

| 開催日           | テーマ                                                                                        | 講師                                                |
|---------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------|
| 6月13日※        | SDGsが変える世界<br>ー地球規模の課題への新たなアプローチ                                                           | 蟹江憲史／慶應義塾大学大学院教授                                  |
| 10月17日        | Memory and Amnesia:<br>Japan-Philippines Relations<br>Reconsidered 記憶と忘却～<br>日本ーフィリピンの関係から | アンベス・R・オカンボ／アテネオ・デ・マニラ大学准教授<br>モデレーター：藤原帰一／東京大学教授 |
| 2018年<br>2月6日 | インターネット時代の<br>中国ポピュリズム                                                                     | 阿古智子／東京大学大学院准教授                                   |
| 3月16日         | 「翻訳」という生き方ー森鷗外                                                                             | 長島要一／コペンハーゲン大学 DNP<br>特任名誉教授                      |

※6月13日の回については、2016年度まで実施されていたランチタイム・レクチャーとして企画し、2017年度にアイハウス・レクチャー枠で開催。

#### 2. 日本理解プログラム

##### (a) Delve into Japanese Culture @ I-House

東京を拠点に、訪日や滞日外国人向けに日本語や日本文化講座を開催している（有）Kisako Intercultural Instituteとの共催で2014年度から実施してきた、日本文化を英語で紹介する講座である。各回日本文化についてさまざまな切り口（日本庭園、歌舞伎、和食など）からの講座を行うことで、在留外国人や海外から会館を訪れる方に日本文化に対する理解を深めていただくと同時に、広く日本人にも国際文化会館に足を運んでいただくことを目指す。

2016年度をもって(有)Kisako Intercultural Instituteとの共催は終了し、2017年度からは国際文化会館の単独主催により、年3～4回程度の講座を開催している。2017年度は、以下の4回の講座を開催した。

| 開催日            | テーマ                       | 講師                       |
|----------------|---------------------------|--------------------------|
| 6月28日          | 桂三輝が語る、<br>「落語」と「RAKUGO」  | 桂 三輝／落語家                 |
| 10月2日          | 和歌に表れる日本の心<br>～『源氏物語』を中心に | ツベタナ・クリステワ／国際基督教大学<br>教授 |
| 11月24日         | 相撲とメディアの<br>長～い付き合い       | リー・トンプソン／早稲田大学教授         |
| 2018年<br>2月14日 | 日本料理の魅力<br>—伝承と追求—        | 柳原尚之／江戸懐石近茶流嗣家           |

**(b) アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター・レクチャー・シリーズ**

本シリーズは、日本研究者の研究成果を一般の方々に広く公開し、また将来の日本研究者と、すでに活躍中の日本研究者とのネットワーキングを図ることを目的に、2014年度よりアメリカ・カナダ大学連合日本研究センター(IUC)、国際文化会館、日本財団の共催事業として実施している。IUCは主に北米の大学生・大学院生を対象に、中・上級日本語の集中教育を行う日本語教育・研究機関であり、卒業生の多くが日本に関わる幅広い分野で研究者、政府関係者、実業家などとして活躍している。こうした卒業生を講師に迎えて、日本語による講演会を年2回開催している。

2017年度は、以下の2回の講演会を開催した。

| 開催日   | テーマ                         | 講師                                  |
|-------|-----------------------------|-------------------------------------|
| 5月31日 | スタンフォード大学における<br>マインドフルネス教育 | スティーヴン・マーフィ重松(心理学者、<br>スタンフォード大学講師) |
| 12月1日 | 「伝統」の息吹一能からアニメまで            | ジェリー・ヨコタ(大阪大学大学院教授)                 |

### (c) 日文研・アイハウス連携フォーラム

京都を拠点に、日本の文化・歴史を国際的な連携・協力の下で研究するとともに、外国の日本研究者を支援している国際日本文化研究センター（日文研）と国際文化会館の共同プログラムとして2014年度に立ち上げたプログラムである。年4回程度、日文研の専任・客員研究員を講師とした講演会を会館で実施することにより、日本研究の最前線を紹介し、日本理解の促進を目指している。

2017年度は、以下の3回の講演会を開催した。

| 開催日            | テーマ                                     | 講師                                                                        |
|----------------|-----------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|
| 7月4日           | 谷川道雄の中国史研究から日中の未来を考える——文化交流と学術思想        | 李 済滄（南京師範大学准教授・日文研外国人研究員）<br>コメンテーター：劉 岸偉（東京工業大学教授）、伊東貴之（日文研・総合研究大学院大学教授） |
| 12月8日          | オーナメンタル・ディプロマシー：明治天皇と近代日本の外交            | ジョン・ブリーン（日文研教授）<br>コメンテーター：サーラ・スヴェン（上智大学教授）                               |
| 2018年<br>1月30日 | 光源氏と〈二人の父〉という宿命 —ブツダの伝記が照らし出す『源氏物語』の視界— | 荒木 浩（日文研教授）<br>コメンテーター：ゲイ・ローリー（早稲田大学教授）                                   |

## IV. 特別プログラム

### 1. 建築プログラム—Architalk

日本近代建築の三大巨匠によって設計された国際文化会館には、創立当初から現在まで日本の建築界を牽引してきた建築家や建築関係者が会員として多数在籍しており、また国内はもとより海外からの建築関係者の来館も多い。これらのネットワークを活かし、会館の建物の再生が行われてから10年が経った2016年に、内外で活躍する建築家を招き、建築を通して現代世界について考えるためのプログラムを開始した。本プログラムでは、講演会終了後に懇親会を開催し、参加者が講師と、また参加者同士が懇談する機会を設けている。

2017年度は、小林正美氏（明治大学副学長）、藤村龍至氏（東京藝術大学准教授）をコーディネーターに、以下のプログラムを開催した。また、森ビル株

式会社、清水建設株式会社、株式会社天童木工、株式会社西原衛生工業所、株式会社三菱地所設計の5社より協賛を得た。

| 開催日            | テーマ                                    | 講師                                       |
|----------------|----------------------------------------|------------------------------------------|
| 9月6日           | 《番外編》パネル・ディスカッションおよびツアー 「近代建築が問いかけるもの」 | 青木 淳（建築家）、鯨坂 徹（鹿児島大学教授）、松隈 洋（京都工芸繊維大学教授） |
| 11月8日          | 都市—記号の海にうかぶくしま>                        | 磯崎 新（建築家）                                |
| 12月4日          | 環境と建築                                  | 妹島和世（建築家）                                |
| 2018年<br>2月16日 | Archaeology of the Future              | 田根 剛（建築家）                                |

## 2. Asia Pacific Young Leaders Program (APYLP)

2030年までにアジア太平洋諸国のGDPは世界全体の3分の2以上を占めることが予測される中で、同地域の若手リーダーたちが世界の安定と繁栄に果たす役割と責任は大きく、彼ら・彼女らが互いの国への理解を深め、共に未来を切り開いていくことが重要である。

Asia Pacific Young Leaders Program (APYLP) は、来る数十年にわたりアジア太平洋地域の平和と繁栄を担っていく次世代のためのコミュニティで、地域内のさまざまなリーダーシップ・プログラムのフェローたちを繋ぎ、継続的な研鑽の機会を提供することで、新たな取り組みを生み出し、こうした次世代コミュニティの活動の拠点となる「場」を提供する。2018年度より活動の柱として、APYLP 参画団体が中心となって年4回のセッションを、日本をはじめアジア太平洋地域各地で開催する。

2017年度は、そのキックオフとしてフォーラムを開催した。1950～60年代にかけてアジア太平洋地域内の相互理解を促進するために、国際文化会館を含むさまざまな団体の設立に関わったジョン・D・ロックフェラー三世の功績を振り返るとともに、これからのアジア太平洋地域に必要な知的交流・文化交流のあり方や若手リーダー間の対話の意義等について、議論がなされた。

| 開催日                | テーマ                               | 登壇者                                                                                                                                                                                                               |
|--------------------|-----------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2018 年<br>3 月 31 日 | 概要説明                              | 近藤正晃ジェームス（国際文化会館評議員）                                                                                                                                                                                              |
|                    | 記念講演                              | チャールズ・ロックフェラー（アジア・ソサエティ評議員）                                                                                                                                                                                       |
|                    | パネル 1<br>アジア太平洋地域の課題と知的交流・文化交流の役割 | パネリスト：<br>ダニエル・ラッセル（アジア・ソサエティ政策研究所シニア・フェロー）<br>フランク・ジャヌージ（マンスフィールド財団理事長・CEO）<br>ロナ・チャオ（百賢亜洲研究院 CEO）<br>シンシア・バウティスタ（ラモン・マグサイサイ賞財団理事）<br>渡辺 靖（国際文化会館評議員）<br>司会：<br>道傳愛子（NHK 国際放送局チーフ・プロデューサー）                       |
|                    | パネル 2<br>次世代が考えるアジア太平洋の未来         | ゲストスピーカー：<br>小林りん（ユナイテッド・ワールド・カレッジ ISAK ジャパン 代表理事）<br>パネリスト：<br>李 源宰〈イ・ウォンジェ〉（アジア・リーダーシップ・フェロー・プログラム）<br>大橋英雄（新渡戸国際塾；日米リーダーシップ・プログラム）<br>エイミー・ジャクソン（マンスフィールド・フェローシップ・プログラム）<br>司会：長尾俊介（ホワイトスター・キャピタル ベンチャー・パートナー） |

### 3. シンポジウム「グローバル時代の民主主義を考える」

近年の自由民主主義国においては、民主的選挙を通して有権者のニーズを反映して諸問題を解決できないのではないかと、民主主義制度の正統性に対する根源的な不信感が広がりを見せる中、渋沢栄一記念財団およびサントリー文化財団との共催で特別シンポジウムを実施した。本シンポジウムでは、米国、英国、韓国、日本などの事例をもとに、民主主義制度の正統性について理論と実証の両面から議論された。

| 開催日       | タイトル                 | 登壇者                                                                                                                    |
|-----------|----------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 12 月 14 日 | グローバル時代の<br>民主主義を考える | 基調講演：<br>メリサ・ウィリアムズ（トロント大学教授）<br>パネリスト：<br>石川涼子（立命館大学准教授）、待鳥聡史（京都大学教授）、金 英敏（キム・ヨンミン）（ソウル大学校教授）<br>司会：<br>田中愛治（早稲田大学教授） |

## V. 出 版

### 1. 公益信託長銀国際ライブラリー

2000 年 7 月に設置された「公益信託長銀国際ライブラリー基金」（前身である長銀国際ライブラリー財団の残余財産を基金として事業を継承）による事業である。政治・経済・社会・文化などの日本人著作を毎年 2 冊選定し、英訳・刊行して広く内外に配布し、国際社会の中での日本理解の増進に資することを目的としている。

2017 年度は、2016 年度事業として選定された長銀国際ライブラリー叢書 No. 40 と未完成であった No. 10 の 2 冊を英訳・編集に従事した（2018 年 4 月刊行）。これらの 2 タイトルは、内外の大学図書館、研究機関、公共図書館、文化施設など、海外 2,800 カ所、国内 700 カ所への無償配布を予定している。

この 2 冊の刊行・配布をもって、公益信託長銀国際ライブラリー基金事業は終了する。

#### <英訳・編集>

長銀国際ライブラリー叢書 No.40

小熊英二著『生きて帰ってきた男：ある日本兵の戦争と戦後』

（岩波書店、2015 年刊）

*Return from Siberia: A Japanese Life in War and Peace, 1925–2015*

by Oguma Eiji

翻訳者: David Noble



長銀国際ライブラリー叢書 No.10

川勝平太著『日本文明と近代西洋:「鎖国」再考』

(日本放送出版協会、1991年刊)を全面改編して刊行。

*The Lancashire Cotton Industry and Its Rivals*

by Heita Kawakatsu

翻訳兼編集者: Jean Connell Hoff

(注) 本書は、旧長銀国際ライブラリー財団が刊行を決定し、著者との間に出版の合意がなされていたが、同財団の解散(2000年)に際して、同事業の継承先を国際文化会館に決定し、同事業の仕掛品であった本書の刊行・配布をその費用とともに、国際文化会館へ委託されたものである。

## 2. アイハウス・プレス

2006年より、出版メディアを通して、会館のプログラム活動の成果を広く一般に発信するとともに、海外における日本理解の増進を目的として、日本人による名著を英訳・刊行して発信する活動を基本として実施している。

2017年度は、以下の1冊の書籍を刊行し、内外の出版マーケットで有償配布を実施した。

国際文化会館新渡戸国際塾編

『新渡戸国際塾講義録 5』

## 3. 定期・不定期刊行物

2017年度は、年4回発行の広報誌『*I-House Quarterly*』(A4版/16ページ、和英併記)を14~17号まで発行し、各界で活躍する方へのインタビューや対談記事、実施した講演のレポートを掲載したほか、今後のプログラムや施設イベントなどを紹介した。会館を知らない層、とりわけ国際問題や文化交流に関心のある若い世代にリーチすべく、各国際機関やメディアなどの通常の配布ルート以外に、関連イベントや大学、書店などでも積極的に配布した。通常の発行部数は6,500部。なお、これまで会員向けに『国際文化会館会報』および『*IHJ Bulletin*』で掲載してきた講演録は、会員専用のウェブサイトへ移行し、継続的に掲載している。

また、各年度の事業内容をまとめた年次報告書(『国際文化会館の歩み』、*Annual Report*)を会員および関係機関に配布した。

2017年度の刊行物は、以下の通りである。

英文年次報告書 *Annual Report 62* (2016年度事業報告、9月発行)

和文年次報告書『国際文化会館の歩み 62』(2016年度事業報告、9月発行)

### *I-House Quarterly*

- No. 14, Summer 2017 (2017年6月発行)
  - ・インタビュー：アナ・トストエス (Docomomo International 会長)
  - ・エッセー：ピート・テオ (音楽家・映画監督) ほか
- No. 15, Fall 2017 (2017年9月発行)
  - ・インタビュー：藤井 光 (アメリカ文学者・翻訳家)
  - ・エッセー：小池一夫 (漫画原作者、小説家) ほか
- No. 16, Winter 2018 (2017年12月発行)
  - ・対談：アンシュ・グプタ (社会起業家) × 古賀 義章 (講談社)
  - ・エッセー：バーバラ・ルーシュ (コロンビア大学名誉教授) ほか
- No. 17, Spring 2018 (2018年3月発行)
  - ・インタビュー：土井香苗 (ヒューマン・ライツ・ウォッチ日本代表)
  - ・エッセー：ケント・カルダー (ジョンズ・ホプキンス大学教授) ほか

## VI. 調査研究

### 1. 外交問題夕食懇談会

外交問題に関心の深い方々を対象に、ゲストスピーカーを囲んでインフォーマルな雰囲気の中で懇談する機会を提供するものである。調査研究プロジェクトとして行っており、得られた成果を他のプログラムの参考にするため、参加者は、学者・研究者、外交実務経験者、NPO、シンクタンク、メディア、経済人など、職種や専門を超えて、異なる分野から少人数に限定している。使用言語は日本語または英語。

2017年度は、以下の懇談会を開催した。

| 開催日            | テーマ                    | 講師                                       |
|----------------|------------------------|------------------------------------------|
| 6月12日          | 「トランプ外交の評価—無原則と柔軟性の間」  | 久保文明／東京大学教授                              |
| 9月4日           | 「第19回共産党大会を控えた中国内外の情勢」 | 宮本雄二／元駐中国特命全権大使                          |
| 2018年<br>3月15日 | 「北朝鮮問題から見た東アジア情勢」      | 添谷芳秀／慶應義塾大学教授<br>コメンテーター：李 鍾元／早稲田大学大学院教授 |

## VII. 図書室

### 1. 通常業務

2017年度の図書室サービスにおいては、前年度と比較して来館者はほぼ同数であったが、貸出（40%）・レファレンス（10%）は増加した。また蔵書管理においては、書架スペース確保のため前年度に引き続き除籍冊数を増やした。

（2018年3月31日現在）

|          | 2016年度   | 2017年度   |
|----------|----------|----------|
| 蔵書       |          |          |
| 図書       | 27,470 冊 | 27,360 冊 |
| 雑誌タイトル   | 390 種    | 389 種    |
| 受入図書     | 329 冊    | 462 冊    |
| 購入       | 127      | 116      |
| 寄贈       | 202      | 346      |
| 受入雑誌     | 2,543 冊  | 2,447 冊  |
| 除籍図書     | 339 冊    | 572 冊    |
| 開室日数     | 292 日    | 292 日    |
| 来館者      | 10,482 人 | 10,460 人 |
| 日本人      | 6,923    | 6,829    |
| 外国人      | 3,559    | 3,631    |
| 貸出       | 1,199 冊  | 1,663 冊  |
| 図書館間貸出   | 132 件    | 144 件    |
| 依頼       | 72       | 87       |
| 受付       | 60       | 57       |
| レファレンス   | 954 件    | 1,066 件  |
| 来館       | 534      | 652      |
| 電話       | 24       | 51       |
| 手紙・ファックス | 0        | 1        |
| 電子メール    | 396      | 362      |
| パソコン利用者  | 596 人    | 606 人    |
| 図書会員     | 131 人    | 124 人    |
| 入会       | 33       | 22       |
| 退会       | 37       | 29       |

## 2. アーカイブ基盤整備事業

会館には写真、事務文書、各種の記録など、戦後の文化交流史を語る一次資料が未整理のまま多数保管されている。これらの資料の活用を可能にし、総合的な基礎目録をインターネット上で公開することを目的として、3カ年計画（2017～2019年度）で本事業を開始した。初年度である2017年度は、事業に関する討議・助言を行うアーカイブ基盤整備委員会を発足させ、同委員会の指導のもと、資料の全容を把握するための状態調査、目録規則の策定、概要目録の作成などを実施した。

## 3. その他

### (a) Reading about Japan at I-House Library

図書室蔵書の朗読と解説を行い参加者が自由にスピーカーと対話し、交流する機会を作ることを目指してリーディングセッションを開催している。各回多くの参加があり、図書室広報の役目を果たしている。

2017年度は、以下のセッションを開催した。

| 開催日    | タイトル                                                                                                                 | 朗読者など                                                                    |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|
| 11月22日 | Elise Wessels and Marije Jansen Talk about <i>Japan : Modern — Japanese Prints from the Elise Wessels Collection</i> | エリス・ウェッセルス<br>(Nihon no Hanga・ディレクター)<br>マライエ・ヤンセン<br>(アムステルダム国立美術館・学芸員) |

### (b) 書籍小展示（共催：日仏会館図書室、ドイツ - 日本研究所図書室）

本小展示は日仏会館図書室、ドイツ - 日本研究所図書室と共催で行ったもので、同じテーマについて会館では英語の資料、日仏会館ではフランス語の資料、ドイツ - 日本研究所図書室ではドイツ語の資料を展示した。

| 開催日                  | タイトル        | 展示資料                                                                     |
|----------------------|-------------|--------------------------------------------------------------------------|
| 10月3日<br>～<br>10月31日 | 没・90年 芥川龍之介 | 芥川龍之介に関する英語資料（会館）<br>芥川龍之介に関する仏語資料（日仏会館）<br>芥川龍之介に関するドイツ語資料（ドイツ - 日本研究所） |

|                                    |        |                                                                                     |
|------------------------------------|--------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| 2018 年<br>3 月 1 日<br>～<br>3 月 30 日 | 歌舞伎・文楽 | 歌舞伎・文楽に関する英語資料（会館）<br>歌舞伎・文楽に関する仏語資料<br>（日仏会館）<br>歌舞伎・文楽に関するドイツ語資料<br>（ドイツ - 日本研究所） |
|------------------------------------|--------|-------------------------------------------------------------------------------------|

## VIII. 協力・後援事業

2017年度、国際文化会館は以下の事業への協力・後援を行った。

### 【協力】

公開シンポジウム「英語を使い未来に活路を開く」（10 月 10 日）

主催：一般社団法人日本英語交流連盟

会場：国際文化会館

Innovative City Forum 2017「都市とライフスタイルの未来を描く」

（10 月 12～14 日）

主催：アカデミーヒルズ、一般財団法人森記念財団都市戦略研究所、森美術館

会場：六本木アカデミーヒルズ

Dance New Air 2018 プレ公演 サイトスペシフィックシリーズ vol.2

「enchaine」（2018 年 2 月 28 日～3 月 2 日、6 公演）

主催：一般社団法人 Dance Nippon Associates

会場：国際文化会館

公開シンポジウム「未来のリーダーを育てるアメリカのリベラルアーツ・カレッジ」（2018 年 3 月 7 日）

主催：公益財団法人グルー・バンクロフト基金

会場：国際文化会館

### 【後援】

公開シンポジウム「増大する地政学的リスクの見通しとその処方箋～『ニューノーマル時代』をどのように生きるか」（7 月 11 日）

主催：一般財団法人国際経済交流財団

会場：国際文化会館

学術シンポジウム「グローバル時代の『普遍』をめざして—『帰一協会』の挑戦と渋沢栄一」(2018年3月6日)

主催：公益財団法人渋沢栄一記念財団

会場：国際文化会館

## VII. 国際文化会館の運営

2017年度は、研究個室（宿泊施設／全44室）において、15,193名の宿泊客を迎えた。このうち、外国人の利用が64.8%と、国内外の国際交流関係者、学者、芸術家、文化、知識人の方々が集う施設としての特色を表している。

### 【会員向け宿泊キャンペーン（全会員対象）】

- 夏季宿泊優待券（有効期間：7月～8月）
- 冬季宿泊優待券（有効期間：12月～2018年2月）

別館に位置する会合施設（講堂／セミナー室）での利用者は34,430名、東館の会合施設（岩崎小彌太記念ホール／樺山・松本ルーム）では、28,589名に利用された。

### 【宴会キャンペーン】

- サマー・パーティープラン（7月1日～9月30日）
- ウィンター&スプリング・パーティープラン（12月1日～2018年2月28日）

料飲施設のティー・ラウンジ『ザ・ガーデン』は、65,862名に利用された。また、主食堂のレストラン『SAKURA』は、16,262名の利用があった。

### 【ティー・ラウンジ『ザ・ガーデン』キャンペーン・イベント】

- お花見ちらし（3月18日～4月9日）
- 夜桜ステーキセット（3月18日～4月9日）
- エスニックスープとライスヌードルフェア（5月1日～6月30日）
- サマースペシャルメニュー（7月1日～8月31日）
- 秋のおすすめパスタ（9月1日～10月31日）
- ハロウィーンケーキセット（10月6日～10月31日）
- パッタイ、シーフードココナッツカレー（11月1日～12月31日）
- ローストチキンクリスマスセット（12月22日～12月25日）
- 年越し蕎麦（12月31日）
- お正月スペシャルランチ（2018年1月1日～3日）
- お正月スペシャルディナー（2018年1月1日～3日）
- 冬のあったかドリアセット（2018年1月8日～2月28日）
- お花見ちらし（2018年3月17日～4月8日）
- 夜桜ステーキセット（2018年3月17日～4月8日）

【レストラン『SAKURA』キャンペーン・イベント】

- お花見弁当 (3月18日～4月9日)
- お花見ランチコース (3月18日～4月9日)
- 夜桜フレンチコース (3月18日～4月9日)
- クラシカルフレンチメニュー (7月1日～8月31日)
- 秋を楽しむフレンチディナー (10月1日～11月30日)
- クリスマススペシャル (12月22日～12月25日)
- 洋風おせち料理 (2018年1月1日～3日)
- 新春フレンチコース (2018年1月1日～3日)
- 会員限定ワイン持込み無料キャンペーン (2018年1月4日～3月31日)
- お花見弁当 (2018年3月17日～4月8日)
- お花見ランチコース (2018年3月17日～4月8日)
- 夜桜フレンチコース (2018年3月17日～4月8日)

以上の結果、別館を含む会合施設および料飲施設の総利用客数は、160,336名となった。また会員懇親の催しとして、以下を開催した。

- 観桜会 (3月30日、3月31日参加者 225名)
- ガーデン・ビアパーティー (7月28日 参加者 174名)
- 国際文化会館会員晩餐会 特別ゲスト：小倉和夫氏  
(11月14日 参加者 76名)
- ワインパーティー (11月16日 参加者 142名)
- クリスマス晩餐会 (12月23日～25日 参加者 253名)

いずれの日も会員の皆様およびゲストの方々が集い、交歓のひとときをお楽しみいただいた。



## サービス活動実績

### 研究個室

自 2017年 4月 1日

至 2018年 3月 31日

|           | 2016年度       | 2017年度       | 増減          | 前年比    |
|-----------|--------------|--------------|-------------|--------|
| 宿 泊 者 数   | 15,182       | 15,193       | 11          | 100.1% |
| 一日平均宿泊者数  | 41.6         | 41.6         | 0.0         | 100.1% |
| 外 国 人 比 率 | 63.1%        | 64.8%        | 1.7%        | 102.7% |
| 稼 働 率     | 78.2%        | 78.1%        | -0.1%       | 99.9%  |
| 収 入 額     | ¥145,844,670 | ¥144,657,990 | ¥-1,186,680 | 99.2%  |
| 一日平均収入額   | ¥399,574     | ¥396,323     | ¥-3,251     | 99.2%  |

会議室・婚礼関連・料飲施設

自 2017年 4月 1日

至 2018年 3月 31日

|         |       | 2016年度       | 2017年度       | 増減          | 前年比    |
|---------|-------|--------------|--------------|-------------|--------|
| セミナー室   | 収 入 額 | ¥67,656,873  | ¥72,783,452  | ¥5,126,579  | 107.6% |
|         | 客 数   | 35,108       | 34,430       | -678        | 98.1%  |
|         | 客 単 価 | ¥1,927       | ¥2,114       | ¥187        | 109.7% |
| 会 議 室   | 収 入 額 | ¥210,480,086 | ¥221,074,728 | ¥10,594,642 | 105.0% |
|         | 客 数   | 26,594       | 28,589       | 1,995       | 107.5% |
|         | 客 単 価 | ¥7,915       | ¥7,733       | ¥-182       | 97.7%  |
| 婚礼手数料   | 収 入 額 | ¥116,948,170 | ¥121,794,231 | ¥4,846,061  | 104.1% |
|         | 客 数   | 8,522        | 8,838        | 316         | 103.7% |
|         | 客 単 価 | ¥13,723      | ¥13,781      | ¥58         | 100.4% |
| レストラン   | 収 入 額 | ¥102,603,265 | ¥103,247,442 | ¥644,177    | 100.6% |
|         | 客 数   | 16,736       | 16,262       | -474        | 97.2%  |
|         | 客 単 価 | ¥6,131       | ¥6,349       | ¥218        | 103.6% |
| ラウンジ    | 収 入 額 | ¥115,331,832 | ¥118,579,998 | ¥3,248,166  | 102.8% |
|         | 客 数   | 64,965       | 65,862       | 897         | 101.4% |
|         | 客 単 価 | ¥1,775       | ¥1,800       | ¥25         | 101.4% |
| 合 計     | 収 入 額 | ¥613,020,226 | ¥637,479,851 | ¥24,459,625 | 104.0% |
|         | 客 数   | 151,925      | 153,981      | 2,056       | 101.4% |
|         | 客 単 価 | ¥4,035       | ¥4,140       | ¥105        | 102.6% |
| 一 日 平 均 | 収 入 額 | ¥1,679,507   | ¥1,746,520   | ¥67,013     | 104.0% |
|         | 客 数   | 416          | 422          | 6           | 101.4% |

## 付 属 明 細 書

2017年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律  
施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する  
重要な事項」が存在しないので作成しない。

2018年5月

公益財団法人 国際文化会館